

平成27年度 新発田市総合学習部 活動報告

部長 豊野 静香

1 研究主題 子どもの思いを大切にした総合の在り方

2 研究の概要

4月 9日 (木) 第1回 研修テーマ・活動計画立案

6月16日 (火) 第2回 授業研究 第4学年

「新発田市のいいところや問題点を考えよう～新発田川調査隊」

11月26日 (木) 第3回 教材研究 地元食材を取り入れた弁当作り

3 研究の実際

(1) 第2回部会

第2回部会での授業研究は、学区を流れる新発田川について、生活とのかかわりや歴史などの良い点や汚れなどの問題点から、水質について考えさせることで、これからの調査活動の課題をもたせる授業であった。子どもたちは、今までの学習を根拠として、水は「きたない」のか「あまりきたなくない」のか、「KJ法」的な手法でグループごとに意見を出し合いながら、類似した意見をまとめ、キーワードを付けて分類整理していた。本時に至るまでの丁寧な学習と、それらを記録した掲示物が生きて、子どもたちがよく考え、話し合っていた。



参観後の協議会・御指導では、以下の内容が確認され、参加者にとって有意義なものとなった。①新発田市は、総合的な学習の時間が日本語教育のための特例措置で45時間になっていることから、限られた時数の中で力を付けることが求められる。それぞれの学年の中で「付けたい力」を絞りこんでから「やること(探求活動)」を精選し、6年間の中で軽重を付けながら網羅していく必要があること。②総合的な学習の時間の目標は、アクティブ・ラーニングと共通である。他の教科の知識、言葉などを、活動や体験などを通して自分のものにしていくことを大切にしていくこと。③児童の思考・話し合いツールとして、主体的、協働的に考えることのできる「KJ法」は有効であること。④外部講師をお願いする際の打ち合わせの重要性。児童に教師が与えたい有効な情報をお願いするとともに、児童に考えさせたり見付けさせたりしたい情報は与えないように綿密に打ち合わせる必要があること。

また、各校の指導計画を持ち寄り、情報交換を行うことができた。

(2) 第3回部会

第3回部会では、秋の地元食材を取り入れた弁当のおかずの調理実習を行った。簡単においしく、さらに、省エネで生ゴミをできるだけ出さない環境に優しいエコ料理について学んだ。今後、家庭科・社会科、食育などの指導に生かしていきたい。



4 成果と課題

第2回部会における授業後の協議会・御指導では、日頃総合的な学習を行う中での悩みに対する答えを見付けられた思いだった。協議・御指導の他にも、授業者の藤田教諭の授業では、準備、進め方、子どもたちの育て方、活動に有効なグッズ、掲示物など、課題をもたせ、それに向けて追求させていく探求的な活動を可能にする手立てが満載であった。総合的な学習は、他の教科とは違い、活動の内容も活動の場も学校ごとに異なっており、共通の学習内容における有効な指導を研修し合うことが難しい。今年の部会で得られたものを生かして、子どもに付けたい力を焦点化し、地域ならではの探求的な活動を組み、自己の生き方を考えることができる子どもの育成を目指していきたい。